

岡山県感染症週報 2014 年 第 51 週 (12 月 15 日～12 月 21 日)

【お知らせ】次週、2014 年 第 52 週(12 / 22～12 / 28)の感染症週報は、平成 27 年 1 月 8 日(木)にホームページに掲載いたします。

岡山県は『インフルエンザ注意報』を発令中です。
岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症 警報』発令中です。

◆2014 年 第 51 週 (12 / 15～12 / 21) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 49 週 5 類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1 名 (80 代 男)
バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 名 (70 代 男)

■定点把握感染症発生状況

- インフルエンザは、県全体で 505 名 (定点あたり 2.76 → 6.01 人) の報告があり、前週より大きく増加しました。
- 感染性胃腸炎は、県全体で 781 名 (定点あたり 13.19 → 14.46 人) の報告があり、前週より増加しました。
- RS ウイルス感染症は、県全体で 113 名 (定点あたり 2.59 → 2.09 人) の報告があり、前週よりわずかに減少しました。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 89 名 (定点あたり 1.70 → 1.65 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。

【第 52 週 速報】

○インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 4 施設でありました。(12 月 22～24 日)

1. **インフルエンザ**は、県全体で 505 名 (定点あたり 2.76 → 6.01 人) の報告があり、前週より大きく増加しました。倉敷市 (11.69 人) で、定点あたり報告数が 10 人を上回り、発生レベル 2 になったほか、全ての地域で患者が増加しています。県内の発生状況など詳しくは、「**インフルエンザ週報**」及び岡山県感染症情報センターホームページ『**2014/2015 年シーズン インフルエンザ情報**』をご覧ください。
2. **感染性胃腸炎**は、県全体で 781 名 (定点あたり 13.19 → 14.46 人) の報告があり、前週より増加しました。発生レベル 3 の地域は、備北地域、美作地域となっています。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など、詳しくは「**感染性胃腸炎週報**」および岡山県感染症情報センターホームページ『**2014/2015 年 感染性胃腸炎情報**』をご覧ください。
3. **RS ウイルス感染症**は、県全体で 113 名 (定点あたり 2.59 → 2.09 人) の報告があり、前週よりわずかに減少しましたが、依然として過去 10 年間の同時期と比較して最も多い状態です。地域別では、岡山市 (3.64 人)、倉敷市 (3.36 人)、美作地域 (1.50 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。第 50 週 (12/8～12/14) 全国の患者報告数は、第 43 週 (10/20～10/26) 以降増加が続いており、過去 10 年間で最も多い状態で推移しています。都道府県別では、徳島県 (7.87 人)、福島県 (7.02 人)、宮城県 (4.83 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、乳児が感染すると重症化する恐れがあり、症状が悪化しても平熱が 38℃以下が多いため、お子さんの様子に注意することが必要です。熱が下がっても症状が改善せず、ゼイゼイとのどが鳴るなどの症状があるときは、早めに医療機関を受診してください。
4. **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で 89 名 (定点あたり 1.70 → 1.65 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。過去 10 年間の同時期と比較して、多い状態で推移しています。地域別では、岡山市 (3.71 人)、倉敷市 (1.55 人)、真庭地域 (1.50 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。第 50 週 (12/8～12/14) 全国の定点あたり報告数は 2.99 人と、2 週連続で増加しており、過去 10 年間で最も多い状態で推移しています。都道府県別では、福岡県 (6.48 人)、北海道 (5.26 人)、鳥取県 (5.11 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。就学前から学童期の小児に多い感染症で、突然の発熱と体のだるさ・のどの痛みで発症し、しばしば嘔吐を伴います。患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。

◆インフルエンザ、感染性胃腸炎、RS ウイルス感染症、
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎が流行しています。

- * 外出後・調理前・食事前は手洗いをしましょう。
- * 外出後はうがいをしましょう。
- * 人混みでは、マスクを着用しましょう。
- * 咳やくしゃみなどの症状があるときは、咳エチケットを心がけ、周囲の人にうつさないよう気をつけましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★	RSウイルス感染症		★★★★★★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★★★★
感染性胃腸炎		★★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)					

【記号の説明】 ・ 前週からの推移： : 2 倍以上の減少 : 1.1~2 倍未満の減少 : 1.1 未満の増減
 : 1.1~2 倍未満の増加 : 2 倍以上の増加

・ 発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

空白：発生なし ★：僅か ★★★：少し ★★★★★：やや多い ★★★★★★：多い ★★★★★★★★：非常に多い

* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、平成 25 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

インフルエンザ週報 2014 年 第 51 週 (12 月 15 日 ~ 12 月 21 日)

【お知らせ】次週、2014 年第 52 週(12/22~12/28)のインフルエンザ週報は、平成 27 年 1 月 8 日(木)にホームページに掲載いたします。

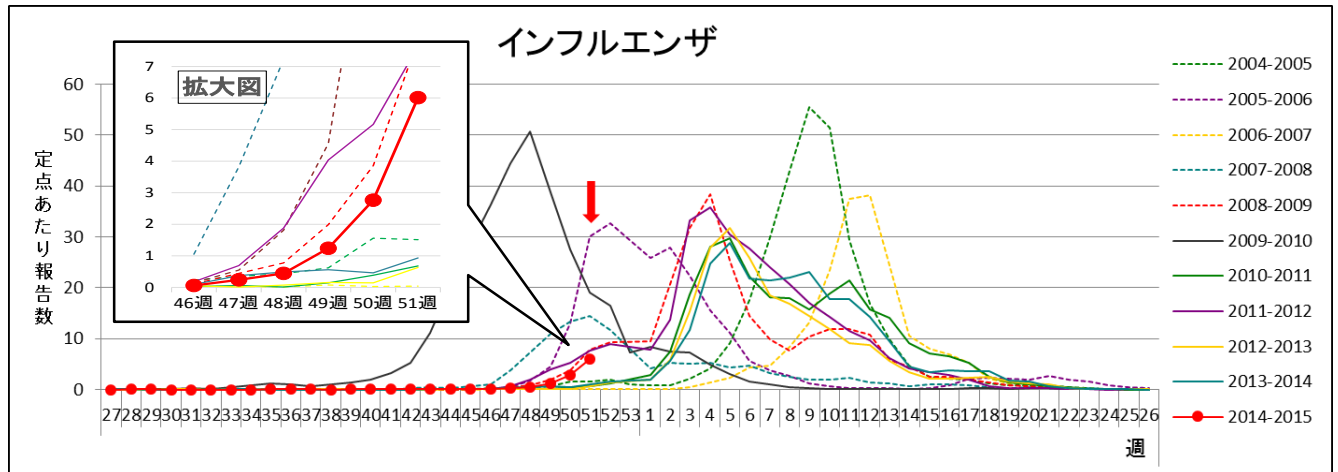
岡山県は『インフルエンザ注意報』を発令中です。

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 505 名（定点あたり 2.76 → 6.01 人）の発生があり、前週より大きく増加しました。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業は 18 施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者 3 名の報告がありました。

【第 52 週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 4 施設でありました（12 月 22~24 日）。

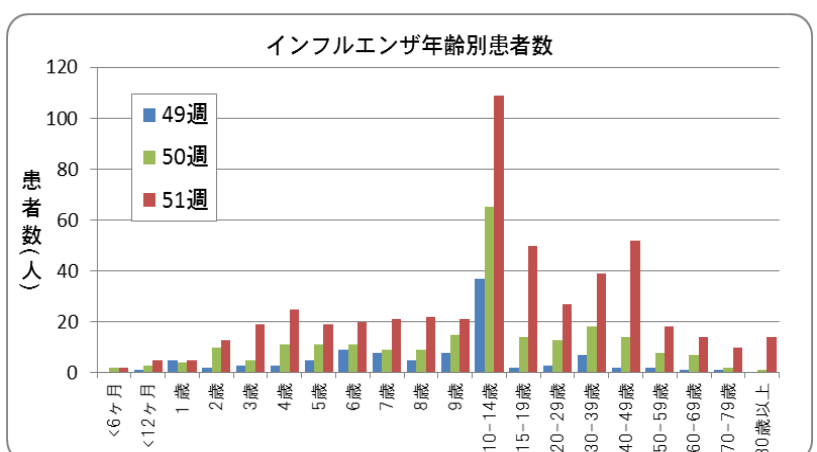
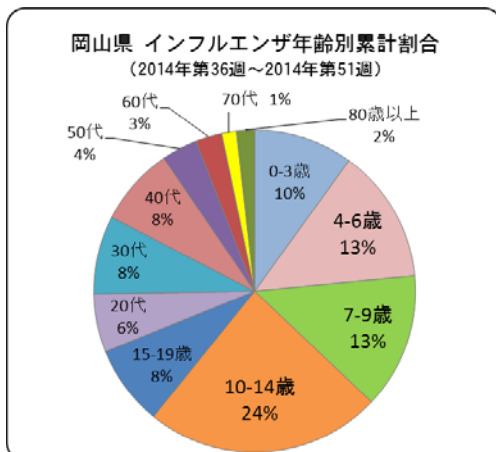


※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ~ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 505 名（定点あたり 2.76 → 6.01 人）の報告があり、前週より大きく増加しました（84 定点医療機関報告）。岡山県では、12 月 11 日「インフルエンザ注意報」を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、倉敷市（11.69 人）、備中地域（9.00 人）、岡山市（5.50 人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、全ての地域で増加がみられました。特に、岡山市（2.23→5.50 人）、倉敷市（4.19→11.69 人）、真庭地域（1.00→3.33 人）では、定点あたり報告数が大きく増加しており、倉敷市では、定点あたり 10 人を上回ったため、発生レベル 2 になっています。学校等の臨時休業は、岡山市、倉敷市、備前地域、備中地域及び真庭地域の 18 施設から報告があり、前週より増加しました。

これからほとんどの学校は冬休みに入るため、学校での感染の機会は減りますが、『外出後や食事の手洗いを徹底する。』『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する。』『十分な睡眠を取る。』など、感染予防に努めてください。また症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

1. 年齢別発生状況



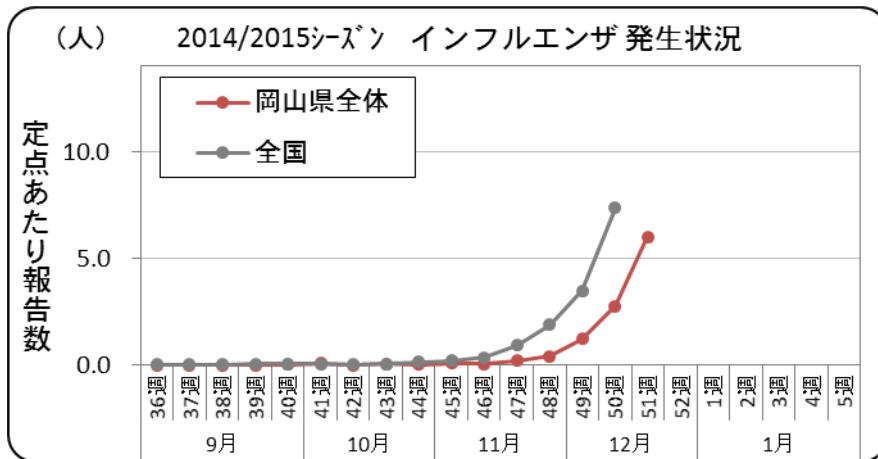
今シーズン（2014 年 9 月 1 日～）年齢別累計割合は、10-14 歳 24%、4-6 歳及び 7-9 歳 13%、0-3 歳 10% の順で報告数が多くなりました。流行の中心は、学校生活をしている年齢層ですが、20 歳以上の成人でも患者数が増加しており、全ての年齢層で注意が必要です。

2. 地域別発生状況

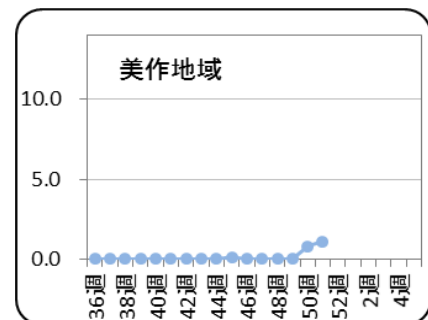
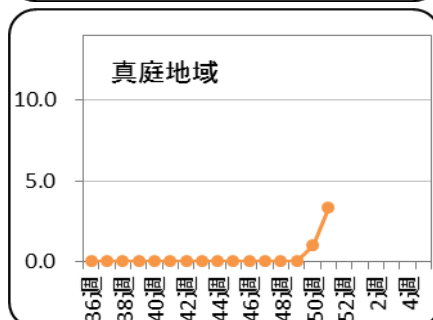
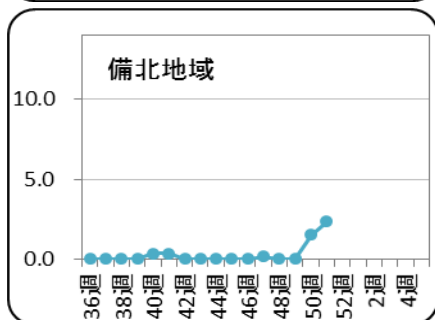
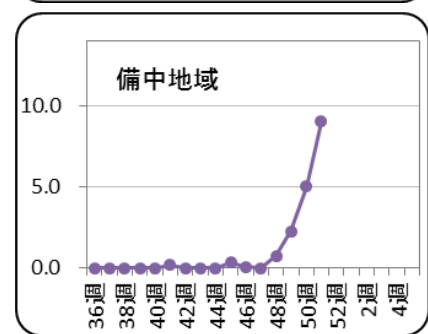
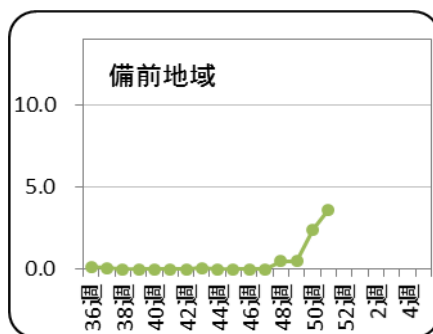
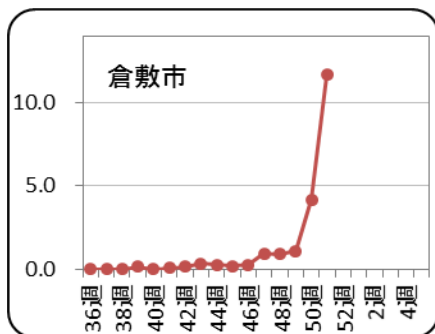
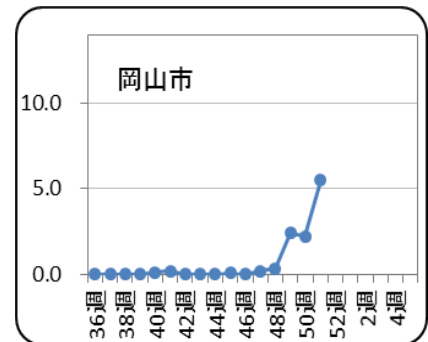
前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	505	▲	備 中	患者数	108	▲
	定点あたり	6.01			定点あたり	9.00	
岡山市	患者数	121	▲	備 北	患者数	14	▲
	定点あたり	5.50			定点あたり	2.33	
倉敷市	患者数	187	▲	真 庭	患者数	10	▲
	定点あたり	11.69			定点あたり	3.33	
備 前	患者数	54	▲	美 作	患者数	11	▲
	定点あたり	3.60			定点あたり	1.10	

【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ↓ 1.1～2倍未満の減少 ▼ 1.1未満の増減 →
1.1～2倍未満の増加 ▲ 2倍以上の増加 ↑



全国集計第50週（12/8～12/14）によると、全国の定点あたり報告数は7.38人であり、第43週以降増加が続いています。都道府県別では、埼玉県（18.80人）、岩手県（15.78人）、北海道（14.26人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、全47都道府県で前週の報告数よりも増加がみられました。

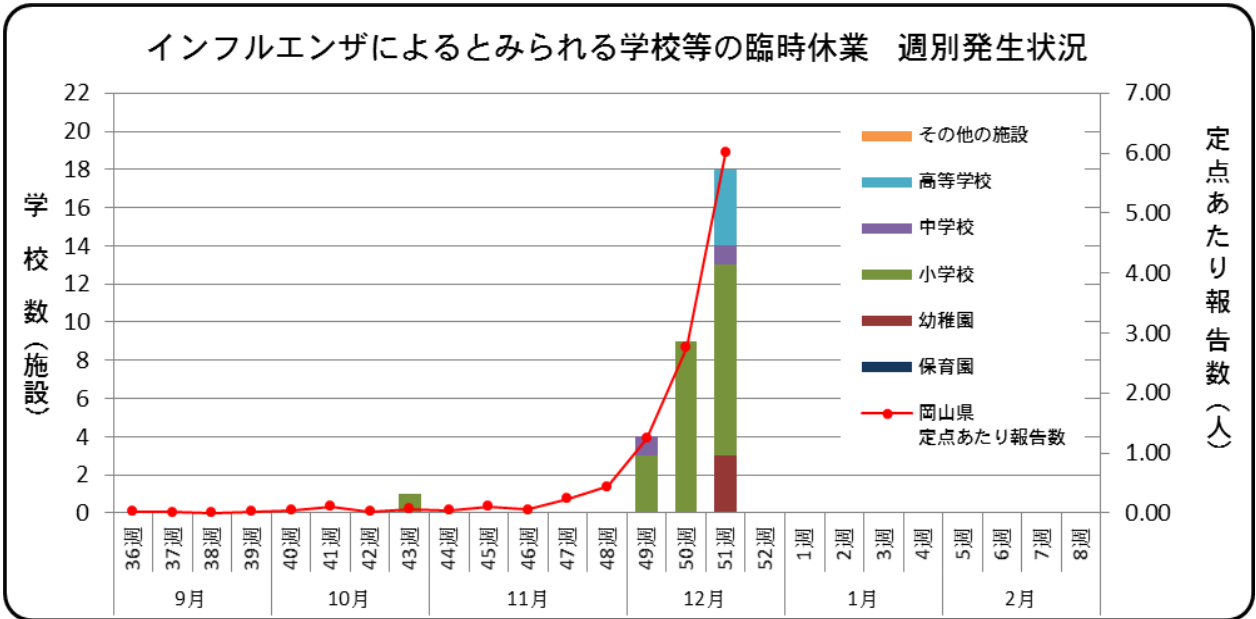


3. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 18 施設でありました。

【第 51 週 臨時休業施設数】

▽岡山市 4 ▽倉敷市 5 ▽玉野市 1 ▽笠岡市 4 ▽井原市 1 ▽里庄町 1 ▽真庭市 2



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	237	488	188	386	18	33	1	1	5	8	12	24	H26.10.21
岡山市	52	171	46	132	4	9	—	—	1	1	3	8	H26.12.1
倉敷市	75	135	52	105	5	9	1	1	1	1	3	7	H26.10.21
備前地域	12	21	11	20	1	2	—	—	—	1	1	1	H26.12.9
備中地域	78	141	67	117	6	11	—	—	1	3	5	8	H26.12.8
備北地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
真庭地域	20	20	12	12	2	2	—	—	2	2	—	—	H26.12.16
美作地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2) 臨時休業施設数の内訳

第 51 週 : 18 施設

累計 : 33 施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	3	3	10	24	1	2	4	4	—	—

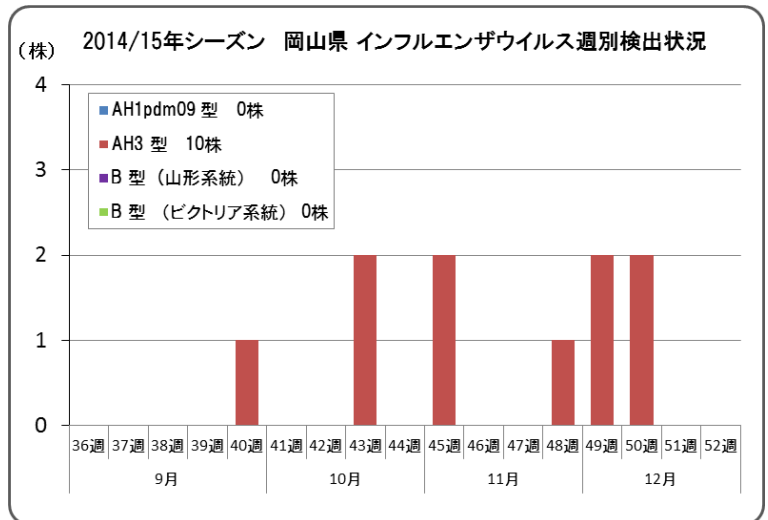
4. インフルエンザウイルス検出状況

第 51 週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、AH3 型が 2 株でした。今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3 型が 10 株（100%）となっています。

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3 型 476 株、B 型 17 株、AH1pdm09 型 7 株、A 型亜型不明 2 株 でした。

（平成 26 年 12 月 24 日現在）

[（インフルエンザウイルス分離・検出速報
（国立感染症研究所））](#)



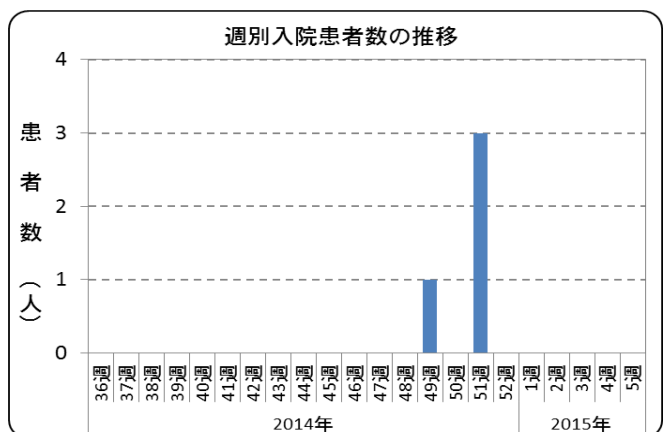
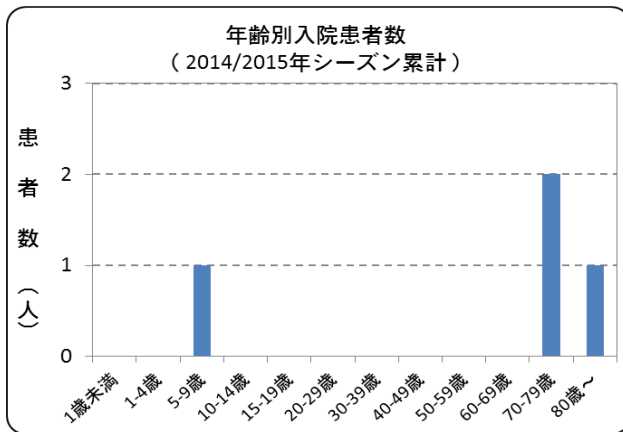
【第 51 週判明分】

ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第50週(12/8~12/14)	2014/12/9	備前	小学生	男
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第50週(12/8~12/14)	2014/12/13	岡山市	幼児	女

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、3 名（70 代 2 名、80 代 1 名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第 51 週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数											2	1	3
ICU入室											1		1
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査(予定含)													
頭部 MRI 検査(予定含)													
脳波検査(予定含)													
いずれにも該当せず											1	1	2

* 重複あり

【平成 26 年 9 月 1 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数			1								2	1	4
ICU 入室											1		1
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査(予定含)													
頭部 MRI 検査(予定含)													
脳波検査(予定含)													
いずれにも該当せず			1								1	1	3

* 重複あり

《インフルエンザの予防接種はお早めに！》

インフルエンザのワクチンによる効果が出現するまで、2週間程度かかります。今年、昨年より3週間ほど早い流行シーズン入りとなっており、早めのワクチン接種をご検討ください。

定期予防接種の対象者は積極的に予防接種を受けましょう。定期予防接種の対象者以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

- 予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
- 年により、流行するウイルスの型が変わるため、毎年接種する必要があります。

定期予防接種対象者

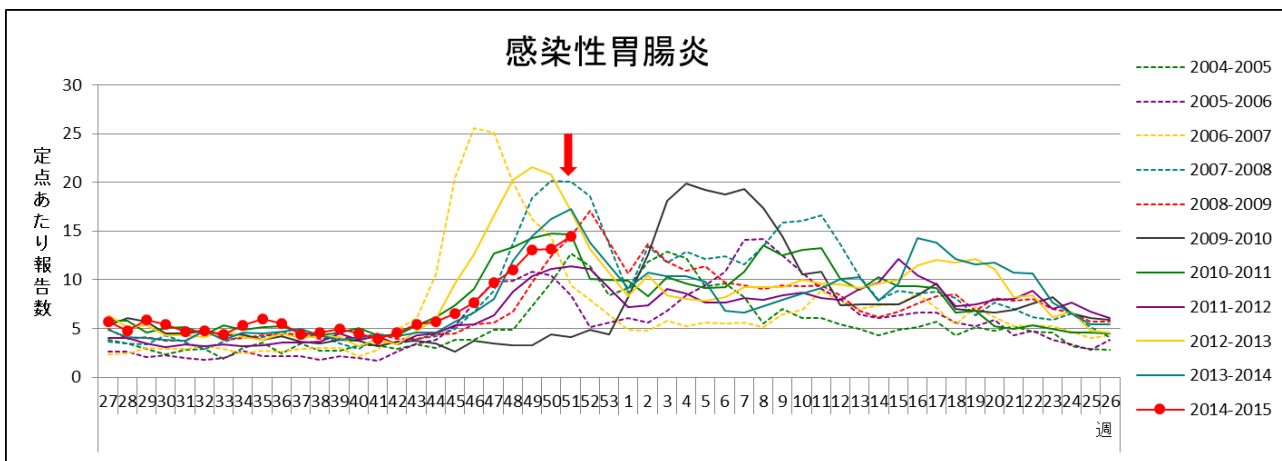
- * 65歳以上の方
- * 60～64歳で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に障害があり、日常生活が非常に困難な方

◎ワクチンの在庫および予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

感染性胃腸炎週報 2014 年 第 51 週 (12 月 15 日 ~ 12 月 21 日)

【お知らせ】次週、2014 年第 52 週(12/22~12/28)の感染性胃腸炎週報は、平成 27 年 1 月 8 日(木)にホームページに掲載いたします。

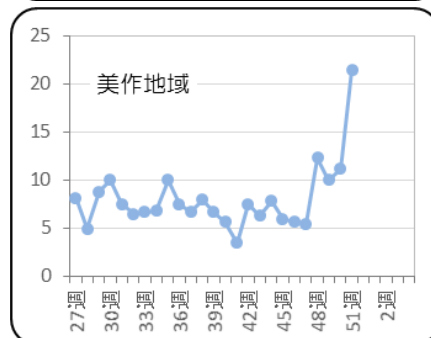
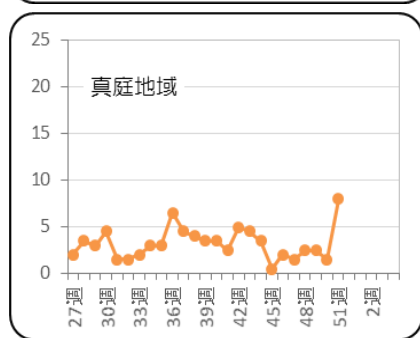
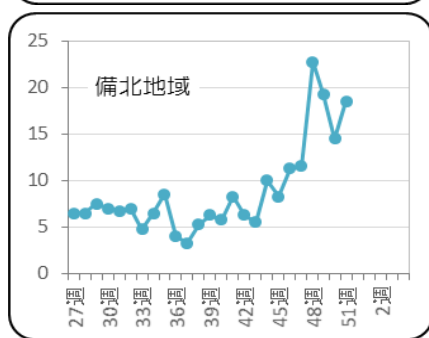
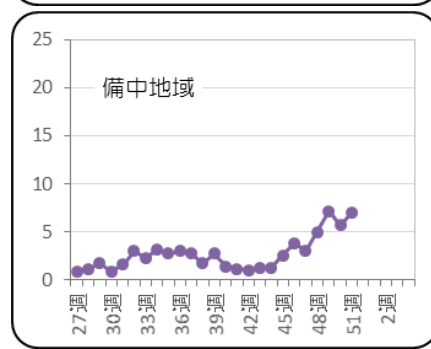
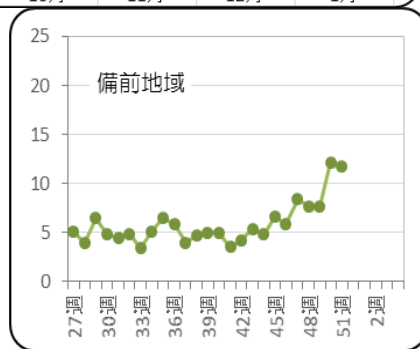
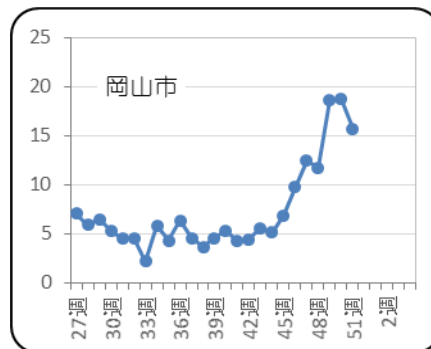
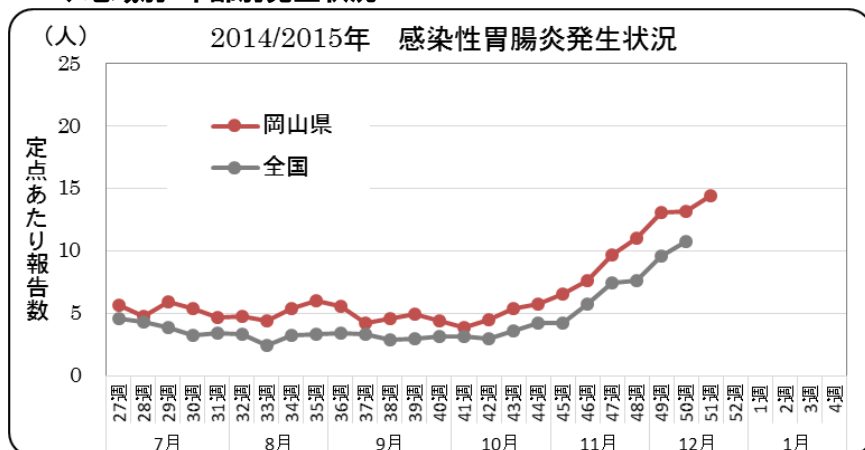
○感染性胃腸炎は、県全体で 781 名（定点あたり 13.19 → 14.46 人）の発生がありました（54 定点医療機関報告）。



※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

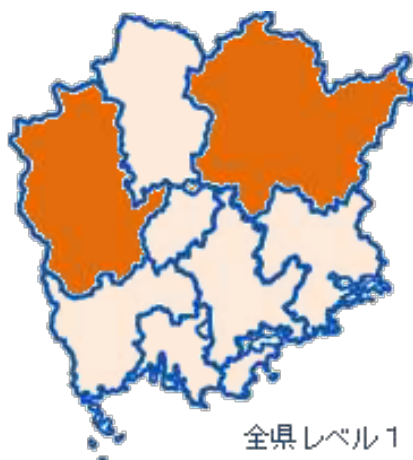
感染性胃腸炎は、県全体で 781 名（定点あたり 13.19 → 14.46 人）の発生があり、前週より増加しました。倉敷市の小学校 1 校で、感染性胃腸炎による臨時休業がありました。冬の感染性胃腸炎の原因はノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。学校や福祉施設、病院などでは、手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

◆地域別・年齢別発生状況



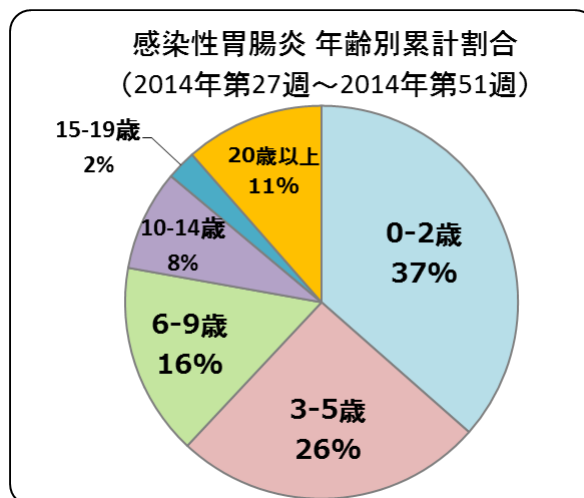
地域別では、美作地域（21.50人）、備北地域（18.50人）、倉敷市（15.91人）の順で定点あたり報告数が多くなりました。美作地域は、定点あたり20人を上回ったため、新たに発生レベル3になり、発生レベル3の地域は、備北地域、美作地域となっています。年齢別累計では、5歳以下の乳幼児が全体の63%を占めています。

感染性胃腸炎感染症マップ 2014年 51週



レベル3		レベル1		報告なし	
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値	基準値
20	12	0< 20未満			0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。



ノロウイルスに感染しないためには

1. 最も大切なことは手を洗うことです。
排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。
2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。
嘔吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理するときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、嘔吐物をペーパータオル等で静かに拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをします。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。ノロウイルスにアルコールは消毒効果が低いとされています。
3. 嘔吐物や下痢便で汚れた衣類は、**85℃で1分間以上の熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**の消毒が有効です。
嘔吐物や下痢便で汚れた衣類は、付着した汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いした後、熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。
※塩素系漂白剤の使用に当たっては「使用上の注意」を確認しましょう。
4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心部を85～90℃で90秒間以上）

[ノロウイルスに関するQ&A（厚生労働省ホームページ）](#)

[食中毒（ノロウイルス）注意報を発令中です（岡山県ホームページ生活衛生課）](#)

保健所別報告患者数 2014年 51週 (2014/12/15～2014/12/21)

2015年1月5日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	505	6.01	121	5.50	187	11.69	54	3.60	108	9.00	14	2.33	10	3.33	11	1.10
RSウイルス感染症	113	2.09	51	3.64	37	3.36	7	0.70	6	0.86	2	0.50	1	0.50	9	1.50
咽頭結膜熱	18	0.33	6	0.43	6	0.55	-	-	1	0.14	1	0.25	1	0.50	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	89	1.65	52	3.71	17	1.55	2	0.20	7	1.00	2	0.50	3	1.50	6	1.00
感染性胃腸炎	781	14.46	220	15.71	175	15.91	118	11.80	49	7.00	74	18.50	16	8.00	129	21.50
水痘	66	1.22	19	1.36	6	0.55	15	1.50	3	0.43	12	3.00	-	-	11	1.83
手足口病	48	0.89	15	1.07	11	1.00	8	0.80	13	1.86	-	-	1	0.50	-	-
伝染性紅斑	1	0.02	-	-	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	21	0.39	12	0.86	6	0.55	1	0.10	2	0.29	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	0.04	1	0.07	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	9	0.17	2	0.14	1	0.09	3	0.30	-	-	-	-	1	0.50	2	0.33
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	0.08	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2014年 51週 (2014/12/15～2014/12/21)

2015年1月5日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	505	6.01	121	5.50	187	11.69	54	3.60	108	9.00	14	2.33	10	3.33	11	1.10
咽頭結膜熱	18	0.33	6	0.43	6	0.55	-	-	1	0.14	1	0.25	1	0.50	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	89	1.65	52	3.71	17	1.55	2	0.20	7	1.00	2	0.50	3	1.50	6	1.00
感染性胃腸炎	781	14.46	220	15.71	175	15.91	118	11.80	49	7.00	74	18.50	16	8.00	129	21.50
水痘	66	1.22	19	1.36	6	0.55	15	1.50	3	0.43	12	3.00	-	-	11	1.83
手足口病	48	0.89	15	1.07	11	1.00	8	0.80	13	1.86	-	-	1	0.50	-	-
伝染性紅斑	1	0.02	-	-	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	0.04	1	0.07	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	9	0.17	2	0.14	1	0.09	3	0.30	-	-	-	-	1	0.50	2	0.33
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	0.08	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2014年 第51週 2014/12/15~2014/12/21)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~	
インフルエンザ	505	2	5	5	13	19	25	19	20	21	22	21	109	50	27	39	52	18	14	10	14

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~	
RSウイルス感染症	113	29	32	25	16	8	1	1	1	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	18	-	-	3	1	4	2	1	-	1	2	1	3	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	89	-	-	-	3	8	8	12	12	12	10	8	13	1	2
感染性胃腸炎	781	17	62	108	74	73	54	71	52	37	32	14	61	20	106
水痘	66	1	2	6	7	7	12	11	10	1	3	2	3	-	1
手足口病	48	-	4	14	9	5	5	5	5	-	-	-	1	-	
伝染性紅斑	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
突発性発疹	21	-	8	9	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	2	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎	9	-	-	-	-	1	1	2	4	-	-	-	-	1	

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

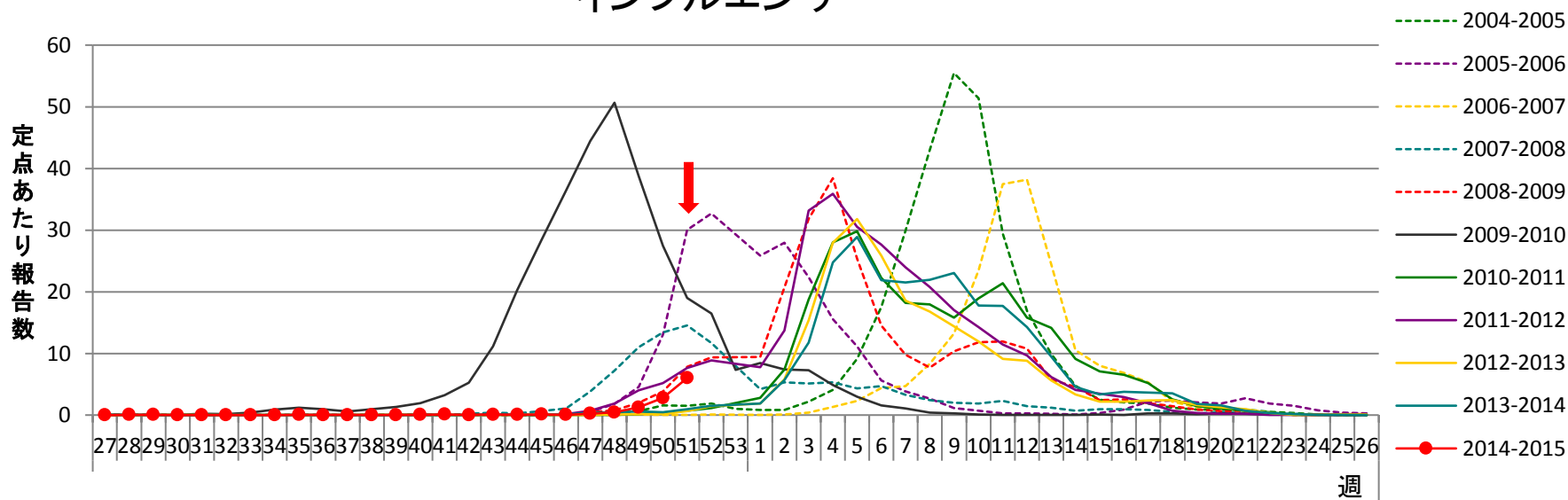
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

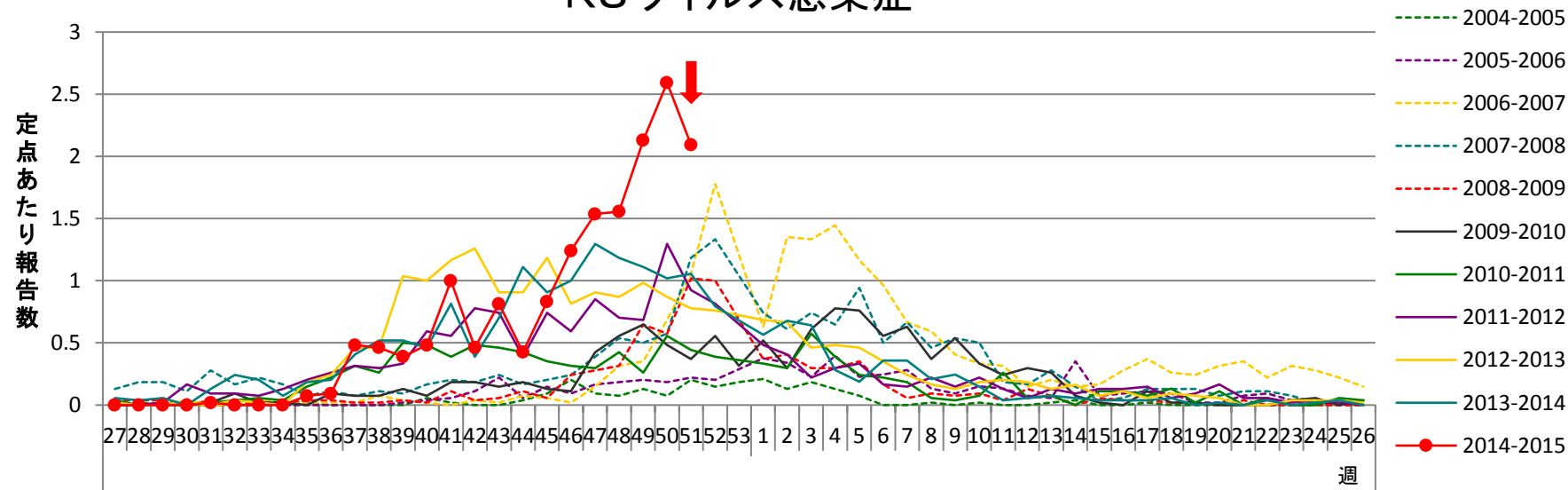
2014年 51週

分類	疾病名	2014		2013	疾病名	2014		2013	疾病名	2014		2013
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	-	348	358	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	68	87
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	2	-	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	7	5
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	2	2	腎症候性出血熱	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-
	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	2	-	デング熱	-	1	-
	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-
	日本脳炎	-	-	1	日本紅斑熱	-	4	2	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-
	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	1	野兔病	-	-	-
	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-
	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	30	24	レプトスピラ症	-	-	2
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	10	20	ウイルス性肝炎*3	-	7	13	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	10	-
	急性脳炎*4	-	9	5	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	4
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	3	3	後天性免疫不全症候群	-	20	18	ジアルジア症	-	-	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	24	20
	水痘(入院例に限る。)	-	3	-	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	18	8
	播種性クリプトコックス症	-	-	-	破傷風	-	1	4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	2	1	風しん	-	2	76	麻しん	-	6	3
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-		-	-	-		-	-	-

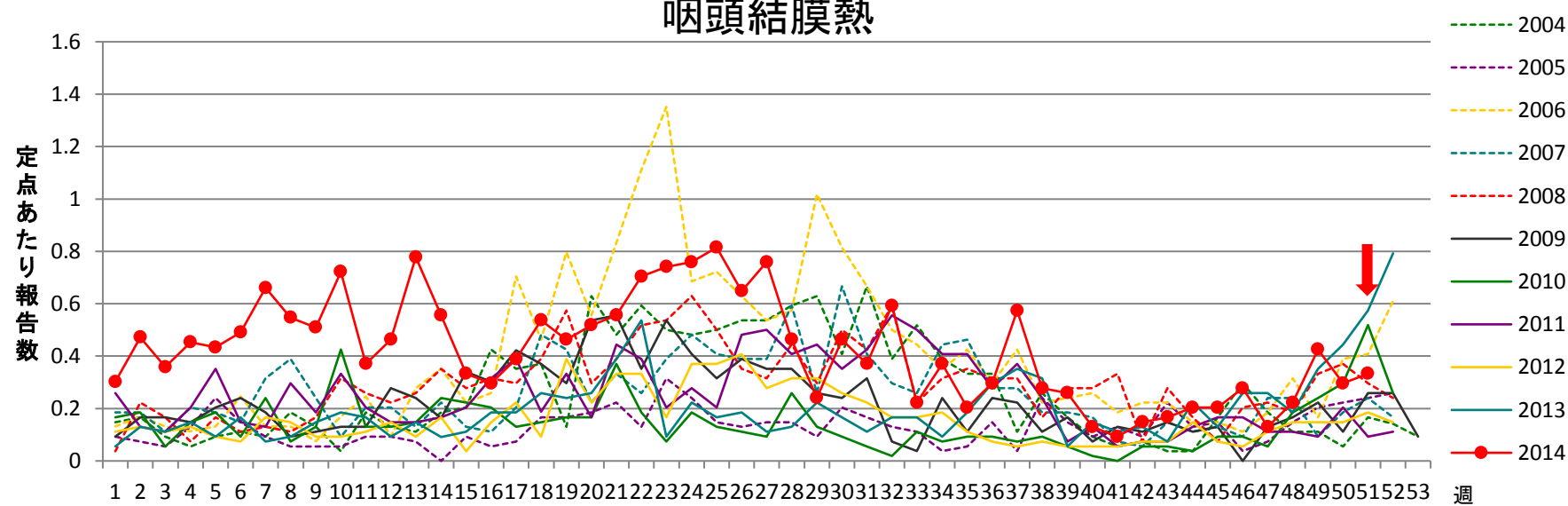
インフルエンザ



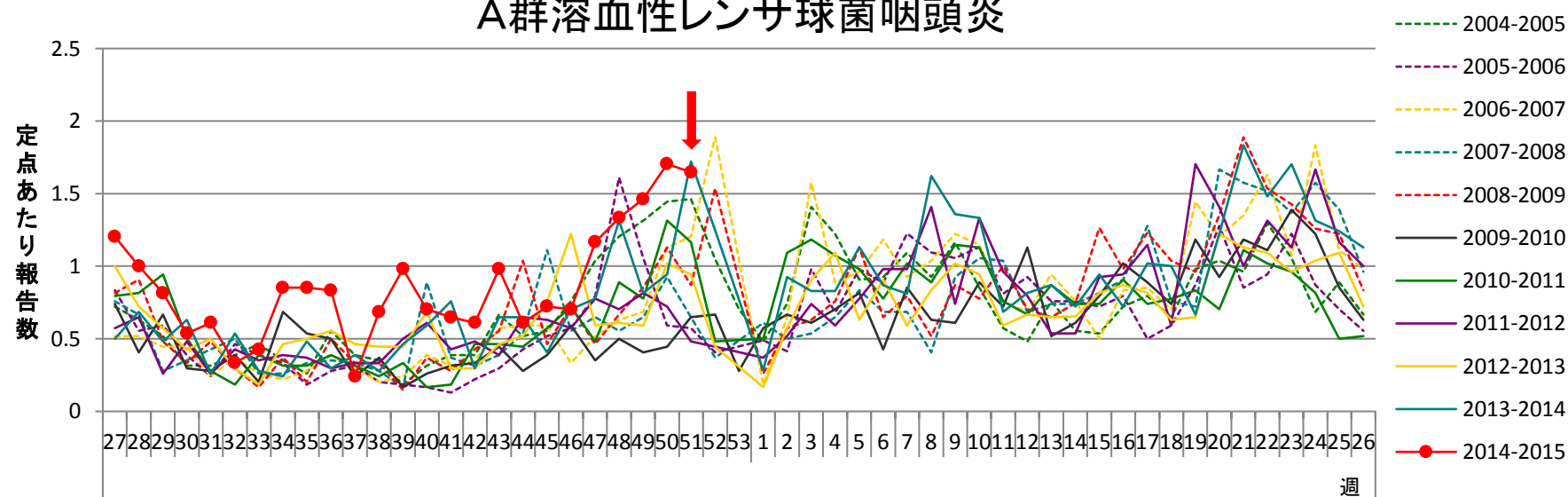
RSウイルス感染症



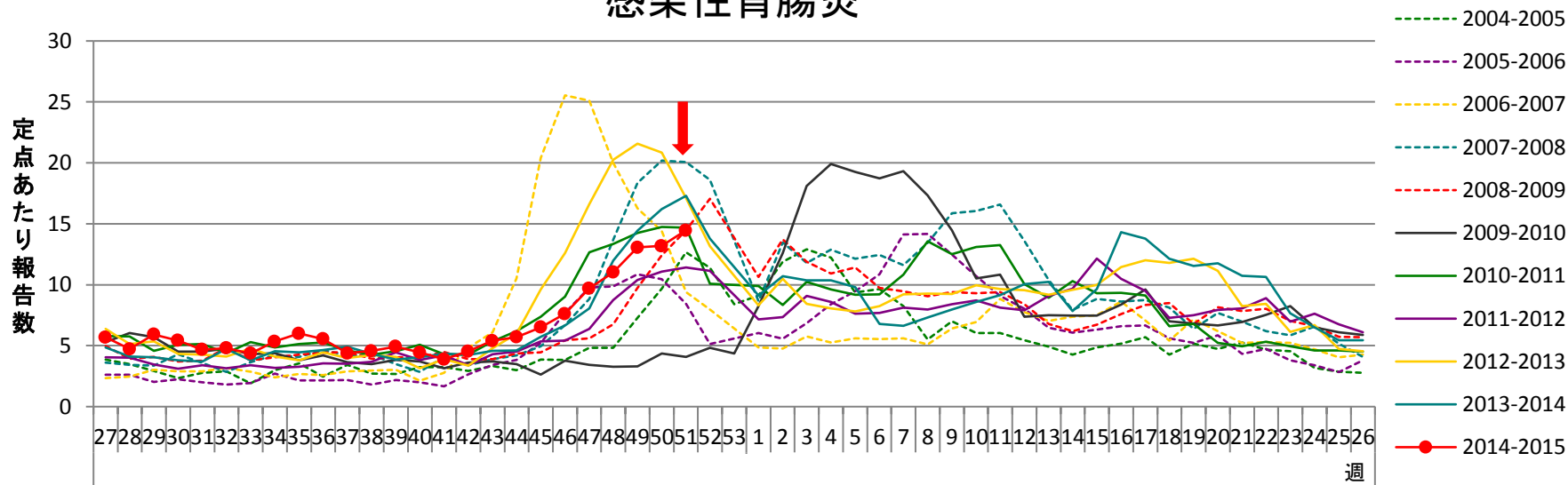
咽頭結膜熱



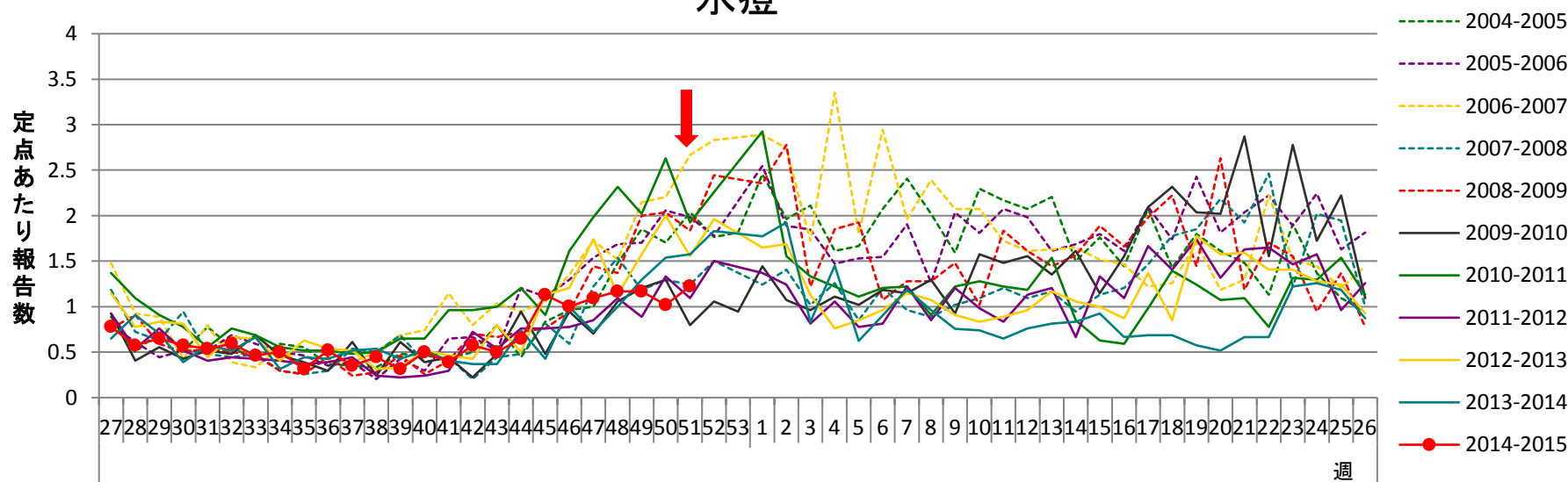
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



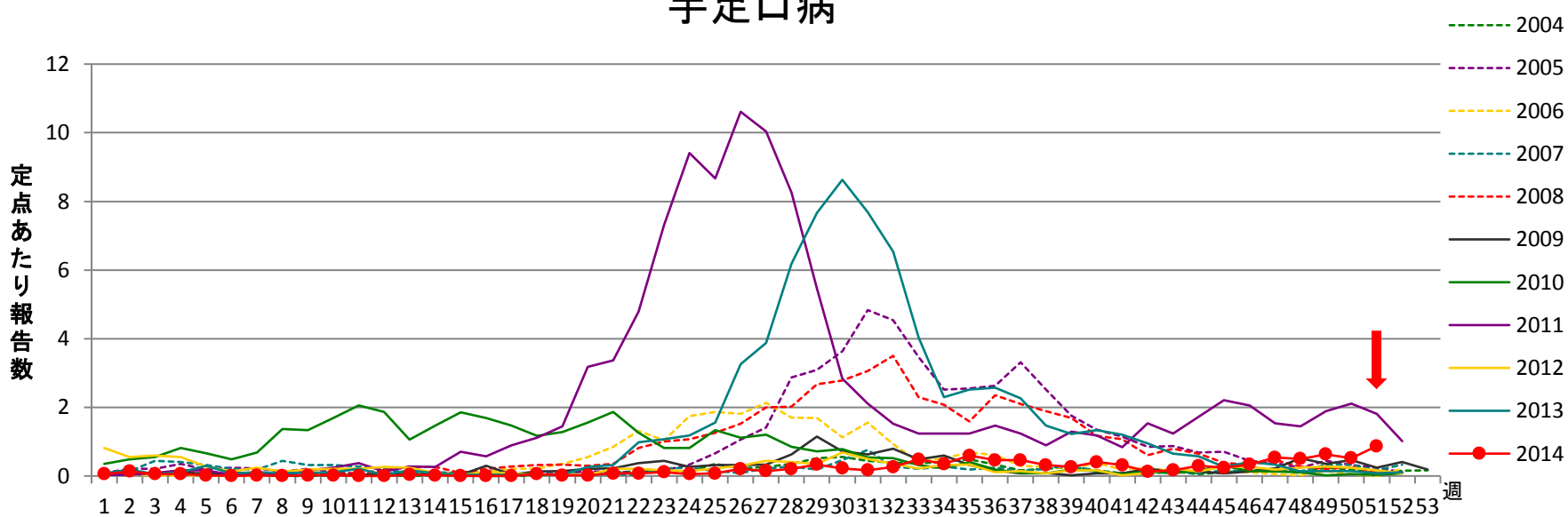
感染性胃腸炎



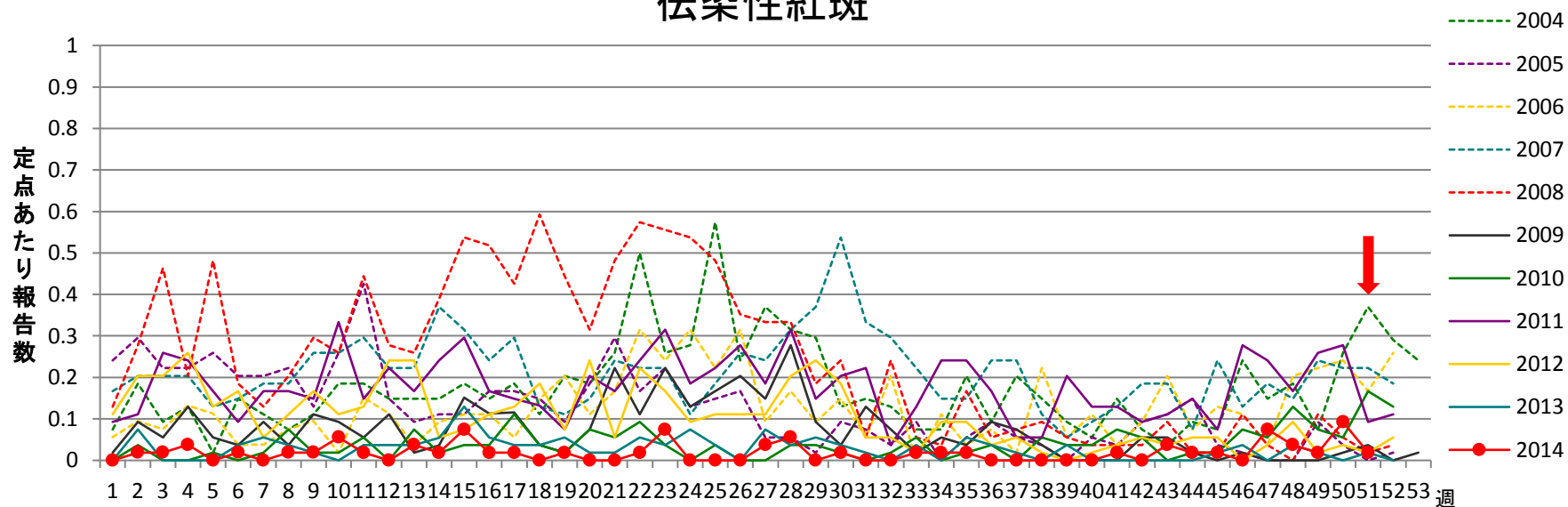
水痘



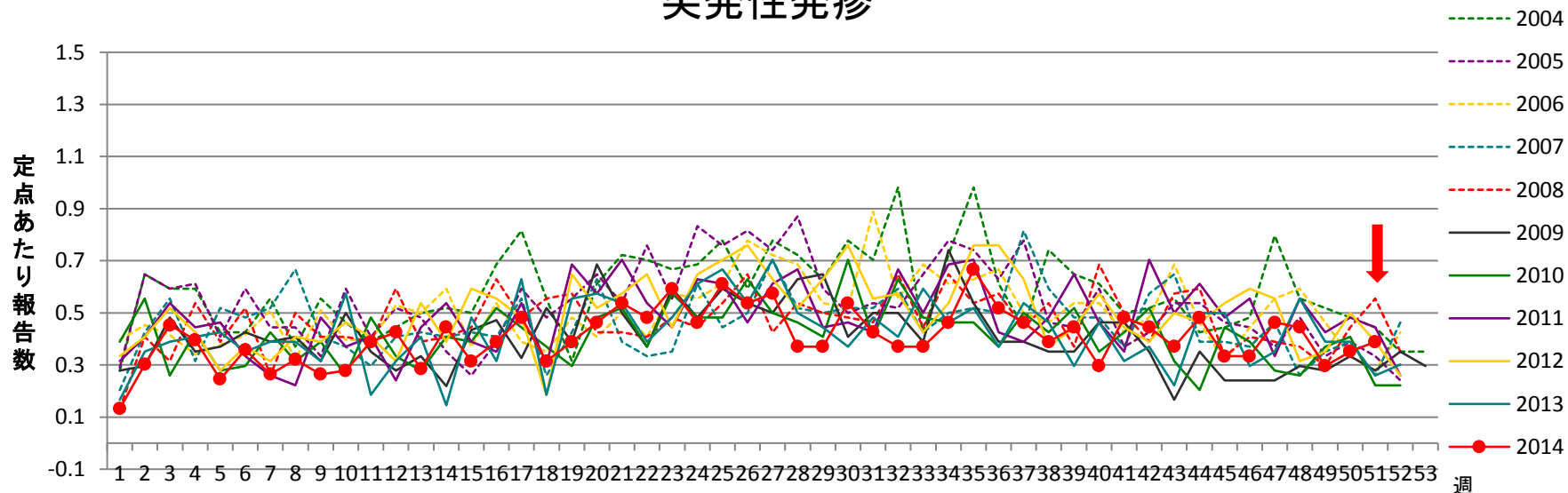
手足口病



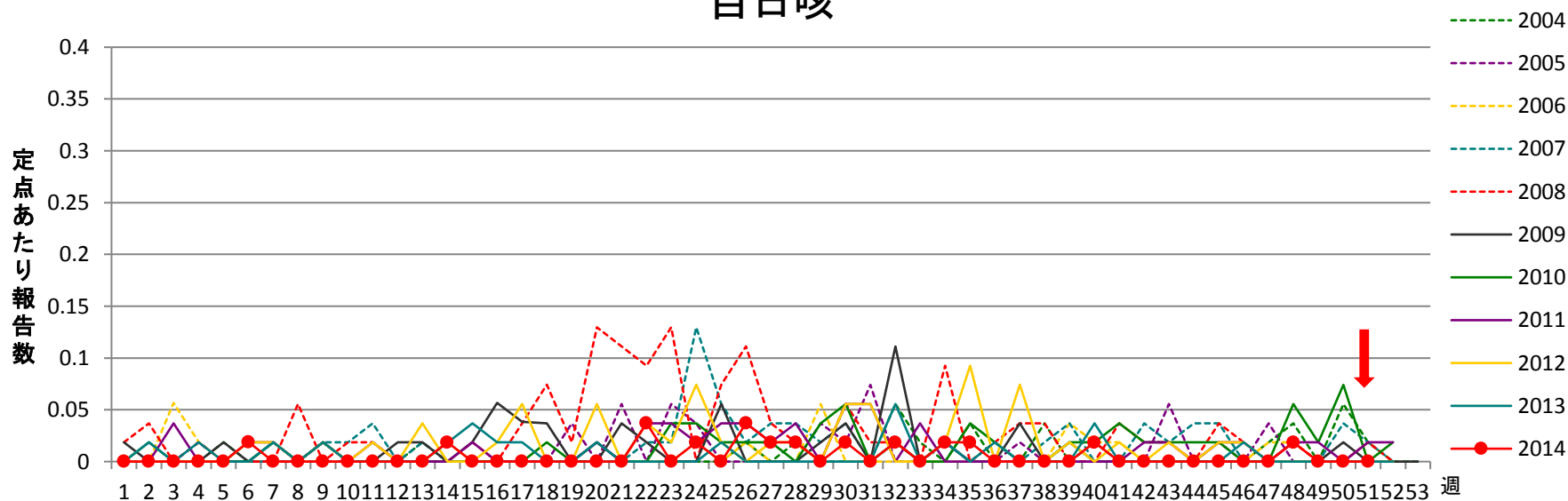
伝染性紅斑



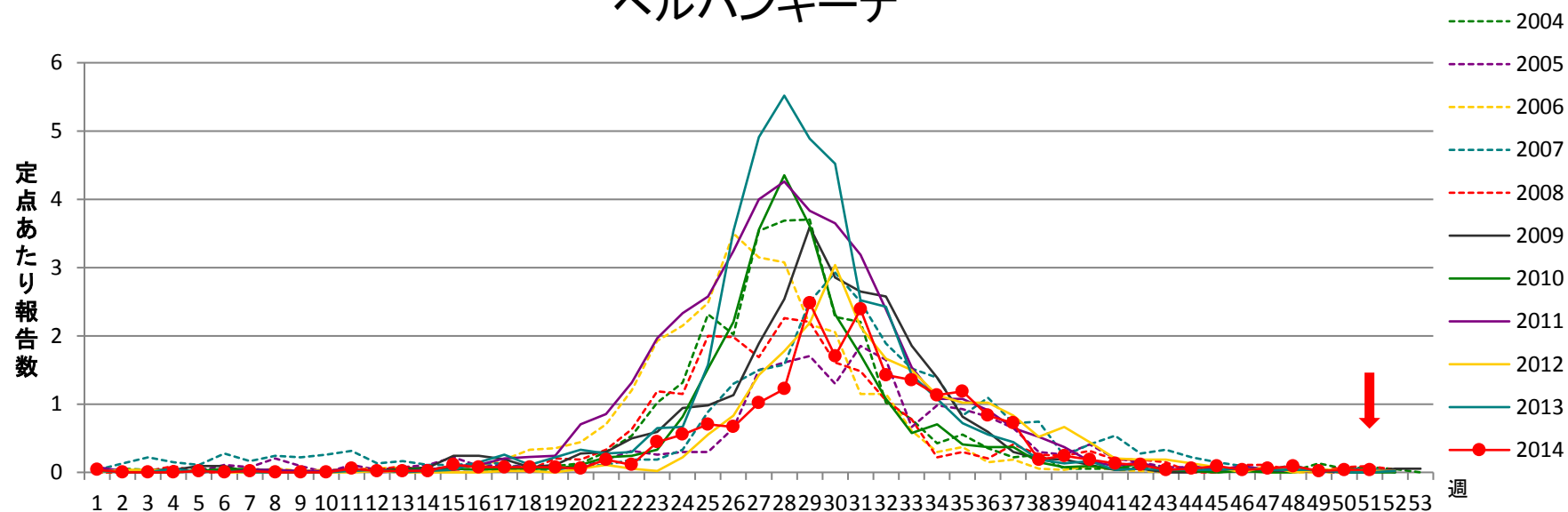
突発性発疹



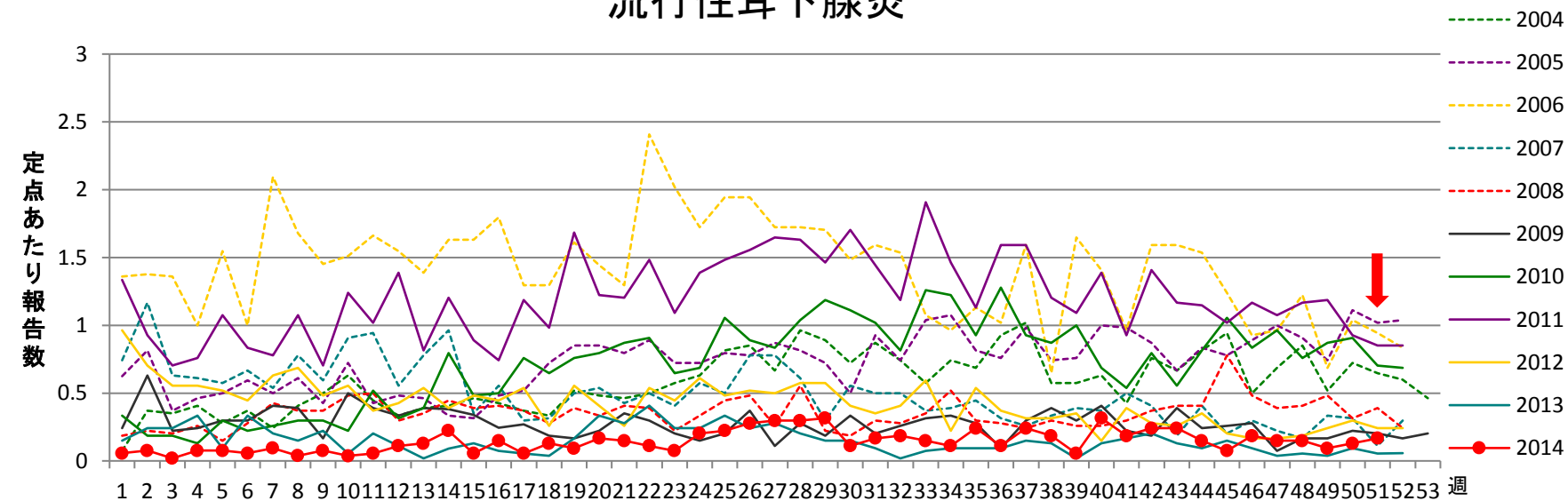
百日咳



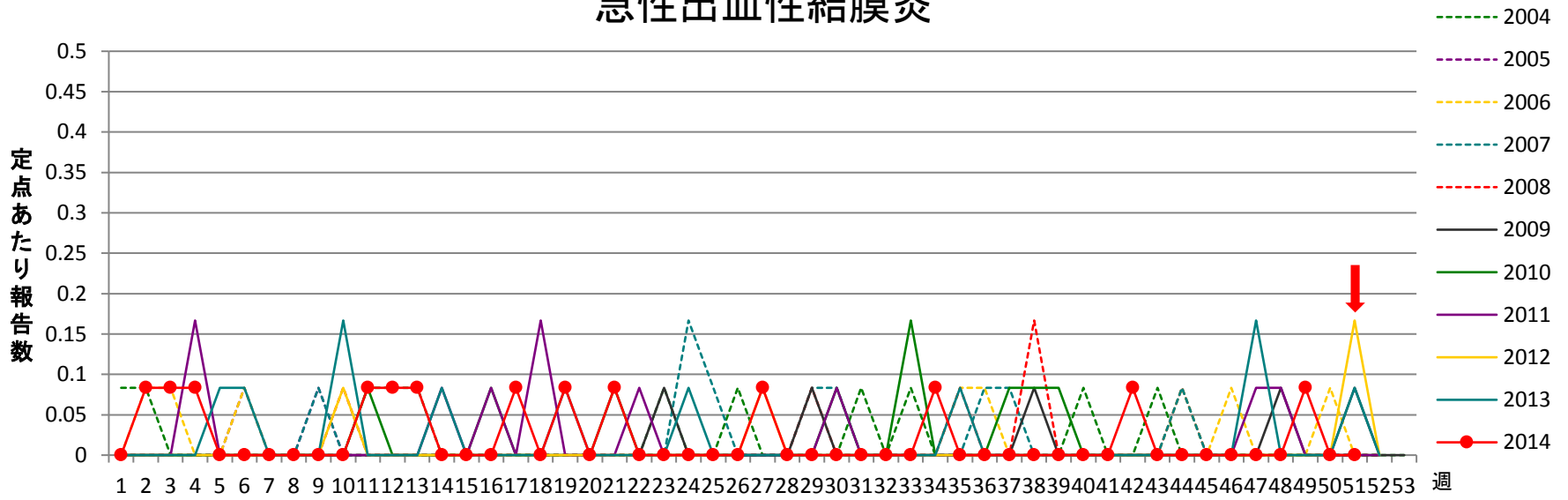
ヘルパンギーナ



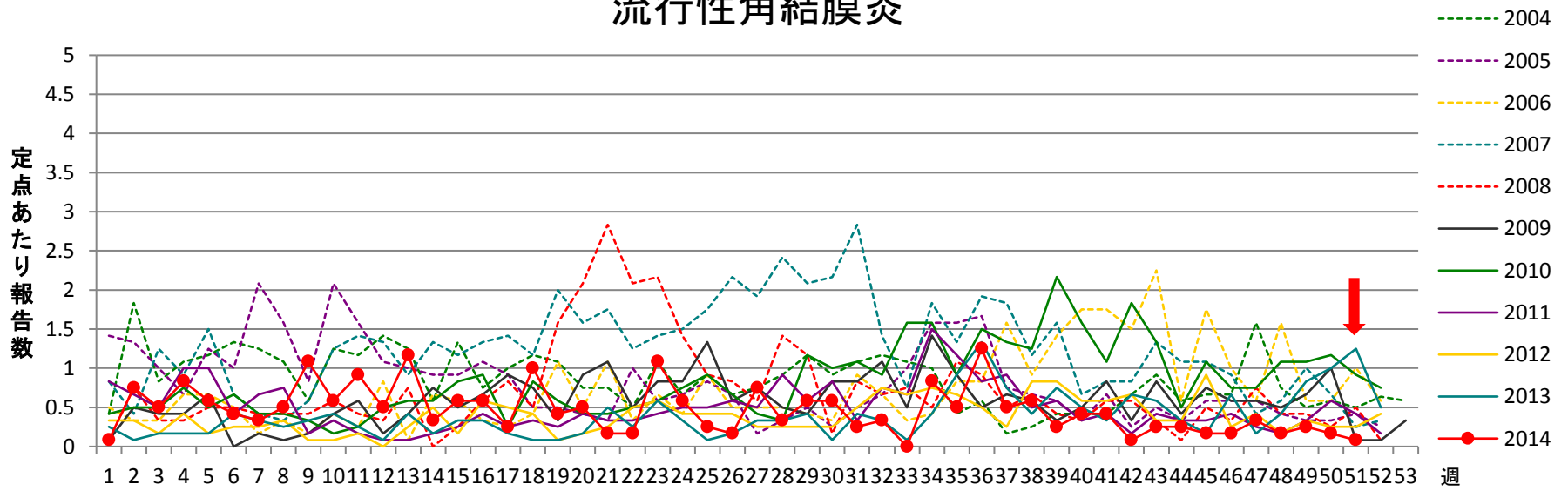
流行性耳下腺炎



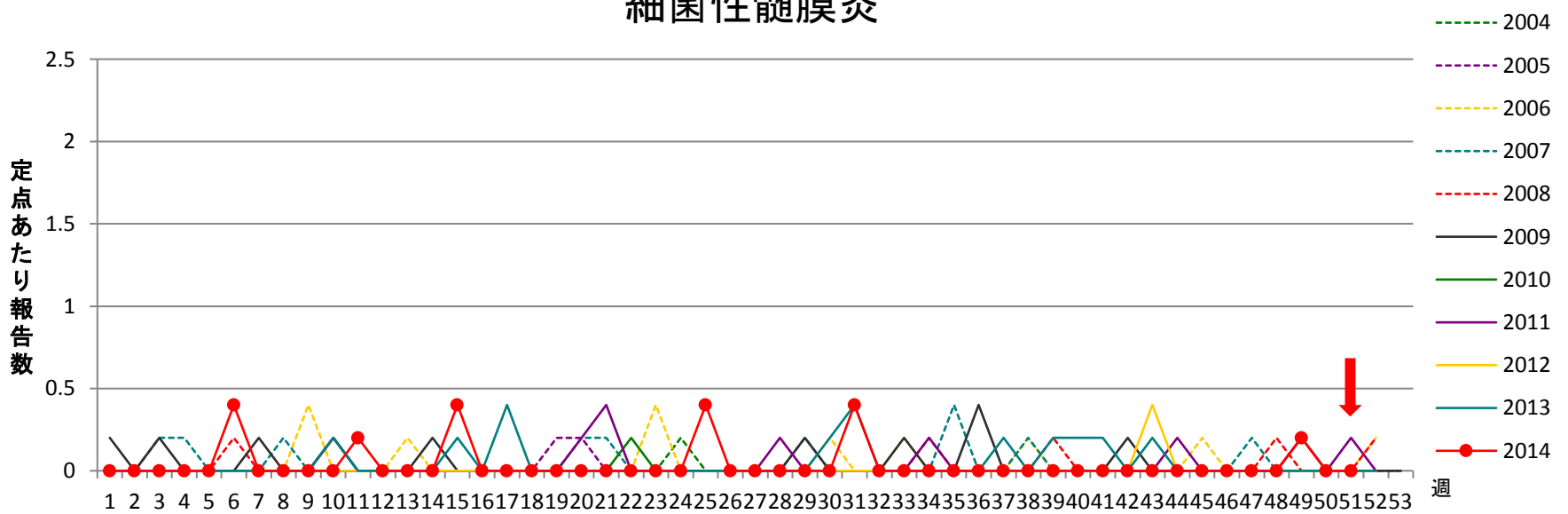
急性出血性結膜炎



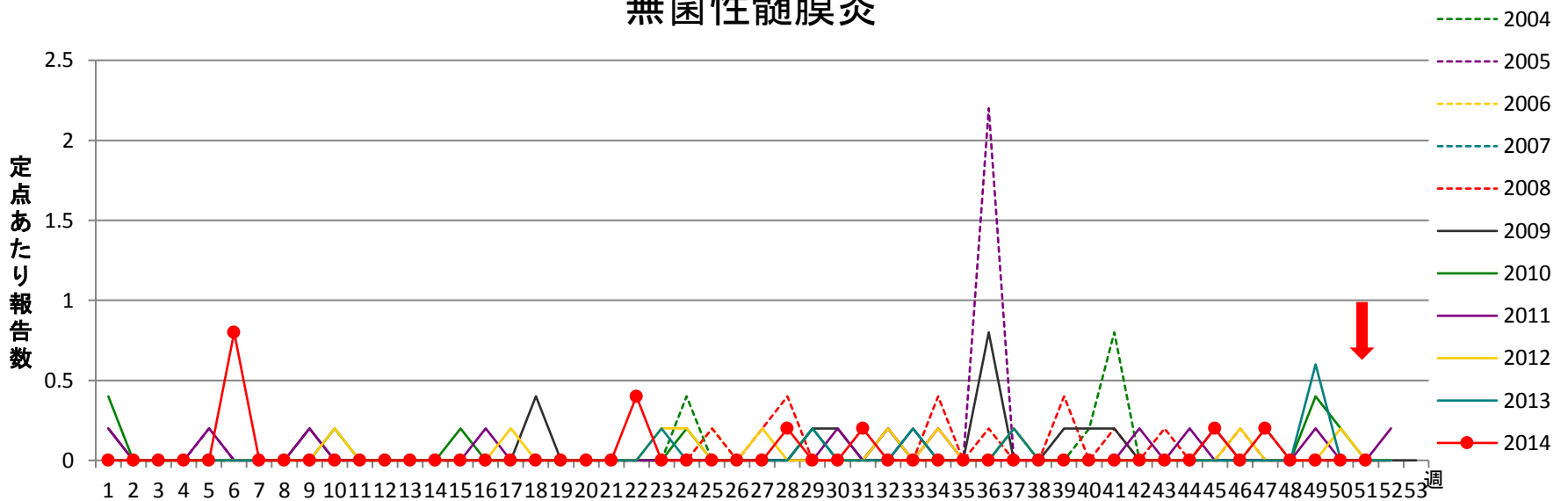
流行性角結膜炎



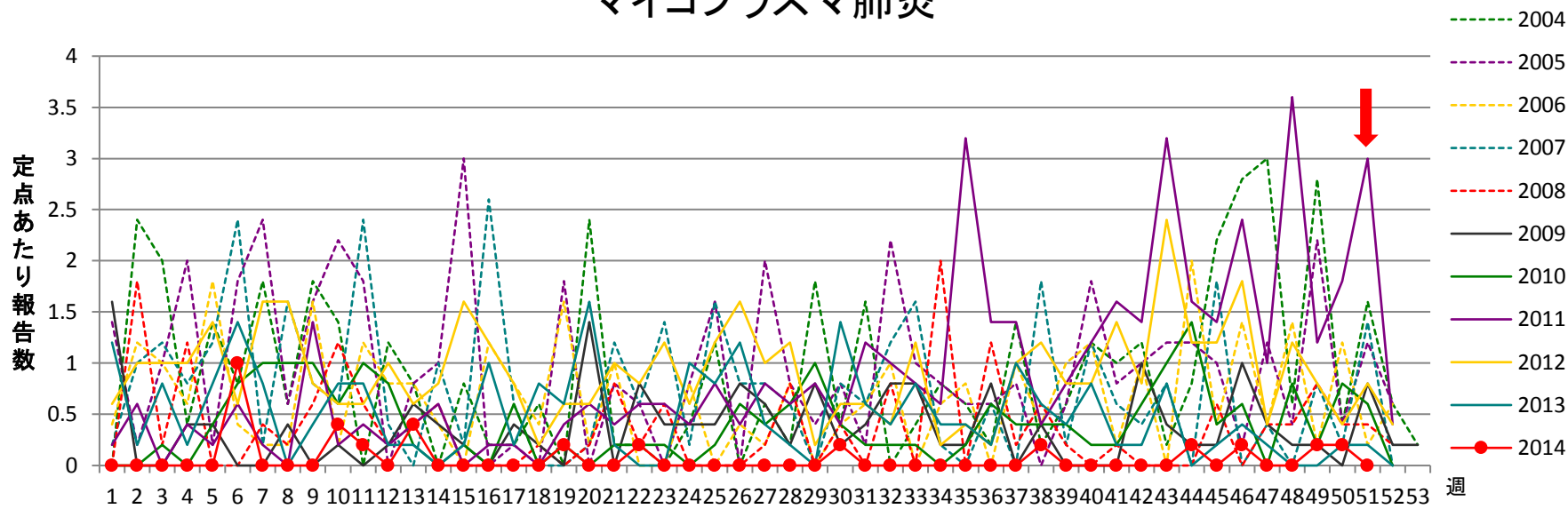
細菌性髄膜炎



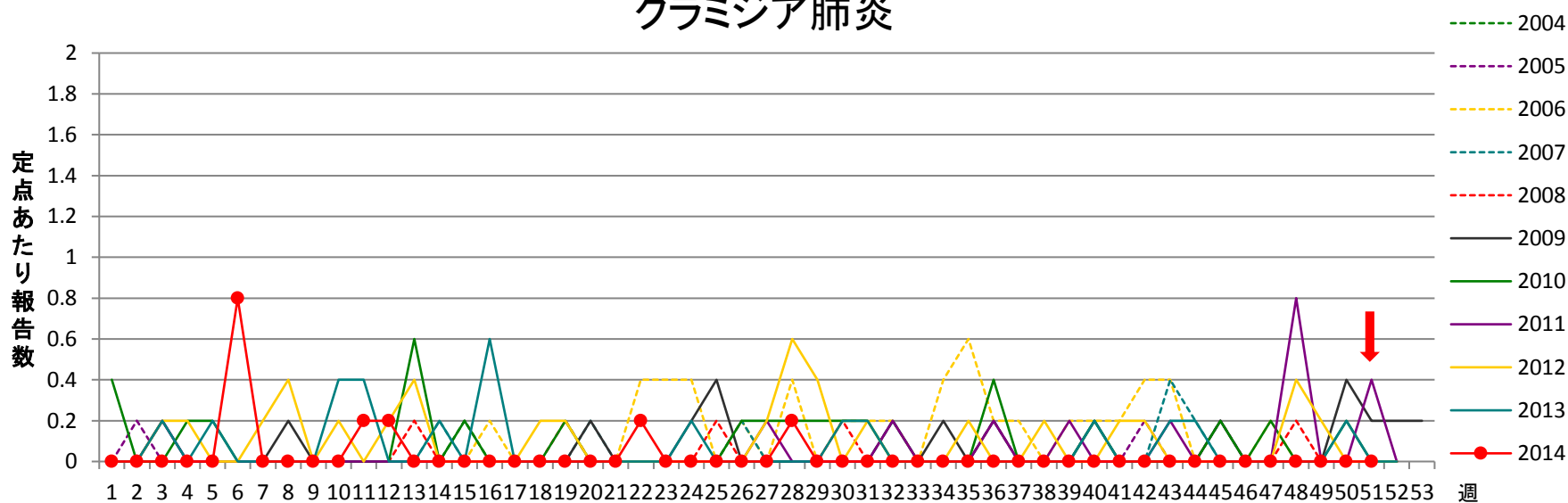
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

